

令和6年度第2回佐賀県廃棄物処理施設専門委員会 意見要旨【議題（2）】

日 時：令和6年12月19日（木曜日）15時30分～17時15分

場 所：旧自治会館 2階 11号会議室

出席者：

○委員（会場）島岡委員長、市場委員、高島委員、田中委員、三島委員
（オンライン）日野副委員長、皆川委員

○事務局：循環型社会推進課 山口課長、山口副課長、龍尾係長、永島主査外4名
傍聴者：2名

報道機関：なし

【意見要旨 議題（2）】

- 埋立地内を内部仕切により区画して埋立処分する場合、埋め立てていない場所に溜まった雨水は排除することになる。今回の廃棄物を上流側から埋め立てていく計画では、廃棄物層からの浸出水が漏水等により埋め立てていない場所に溜まった雨水を汚染するリスクがあると考えますが問題はないのか。
- 管理型最終処分場では大雨時に浸出水を処分場内に貯留する場合があると考ええる。下流側から埋め立てていく処分場では、そのような場合も想定した堰堤が必要になる。今回の場合は、上流側から埋め立て行く処分場であり、内部仕切の堰堤の設計は、大雨時に貯留することを想定したものが必要と考えるが問題はないのか。
- なぜ擁壁ではなく土堰堤なのか。景観の問題であれば擁壁を設置したうえで海側は土を盛ればいいのか。
- 土堰堤は砂で円弧すべりを計算されているが、遮水の構造や透水性を考慮した安全性となっているのか。
- 最大月間降水量を年に直して計算するのはおかしいのではないか。調整池の容量などについて、問題がないか再検討する必要があるのではないか。
- 浸出水集排水管の形状について、有孔管と書いてあるが、3分の1は無孔か。また、その無孔の部分は改良土に埋め込む設計になっていないようだが、そこに浸出液が溜まるのは問題ではないか。
- 地下水採水場所（上流・下流）は適切な場所になっているか。導水管（完全無孔管）ではなく、地下水の集排水管は3分の1無孔部分のある有孔管なのか。
- 地下水集排水管の出口でのモニタリングをするべきではないか。

- 浸出水調整槽についてはメンテナンス日数も考慮して、調整槽の大きさを考慮しているのか。
- ダイオキシン類について適正に処理することは可能か。
- 埋立区域内外の側溝の設計計算で、流下能力と最大流量がほぼ同等で流れている部分があるが、想定を超える雨が降ったときでも大丈夫か。
- 海水面が放流水排水管及び地下集排水管を超える場合、逆止弁が閉まる間は放流水及び地下水を排水することができないと思うが、貯留する場所が必要ではないか。
- 円弧滑りの計算で土質が砂の場合、粘着力 C が 30 で問題はないか。また、円弧滑り計算は何を想定して作成されているのか。
- 遮水シートに LLDPE 低密度ポリエチレンシートを採用した理由は何か。
- 生活環境影響評価の騒音の評価方法で、施設稼働時と埋立作業時で分けて測定や予測をしているが、施設稼働時と埋立作業は同時に行うと思うため、合算した計算が必要ではないか。
- 処理水を海に放流することになると思うが漁業関係者への影響（水利権など）は大丈夫か。
- 浸出水処理施設に生物処理（嫌気処理）があるが、その臭気については問題ないのか。
- 伊万里市は黒塩区以外の地域への影響を考えているようだが問題はあるのか。